

原発事故の
本質

FUKU SHIMA レポート

FUKUSHIMA
PROJECT

FUKUSHIMAプロジェクト委員会

水野博之・山口栄一・西村吉雄・河合弘之・顔尾俊二・仲森智博・川口盛之助・本田康二郎

はじめに

「福島原発問題」は現代の日本を象徴する事件であり、かつまた、将来のこの国の在り方を規定する出来事でもある。従って、この帰趨をきめるのは当然のことながら「国民の総意」である。問題はこの「国民の総意」なるものが那邊にあるか、明確にすることにつきる。にもかかわらず、現在の処、声高く聞こえてくるのは当事者や評論家の声ばかりのように感じられる。

もちろん、これらの声の重要性を否定するものではないが、それにしても「国民の意思」は何処にあるのであろうか。「国民の意思」と言い

ば直ちに「世論調査」が思い浮かぶが、問題は「Yes or No」と割り切れるほど簡単なものではない。

このような立場から畏友 仲森智博さんが、此の問題について、何者にも介在されない自主独立出版の計画を創られた。出版に必要な費用を得るために寄付を募るというユニークな計画である。錚々たるメンバーが既に参じているところへ、私にも代表発起人として加われという。こうしてFUKUSHIMAプロジェクトが始まった。

プロジェクトの成果は、ここに大部の書物として、世に問う段階に達した。一読に値するものと確信している。読者の皆さまのご評価を期待したい。

FUKUSHIMAプロジェクト代表発起人

水野博之

アートディレクション 奥村 鞆正
(TSTJ Inc.)
デザイン 松田 剛
(東京〇〇ミリパブルスタジオ)

FUKUSHIMAレポート
目次

はじめに 2

第1章 メルトダウンを防げなかった本当の理由——福島第二原子力発電所事故の核心 11

- 1.1 はじめに——何かが見逃されている 12
- 1.2 事故は、どのように起こったか 27
- 1.3 1号機は、どのように制御不能になったか 37
- 1.4 3号機、次いで2号機は、どのように制御不能になったか 51
- 1.5 5月15日の豹変 63
- 1.6 日比野靖の証言 79
- 1.7 J R 福知山線事故との類似性 95
- 1.8 何があきらかになり、何をあきらかにすべきか 105
- 1.9 おわりに——新しい曙光に向かつて 114

〔付表・1〕 東京電力株式会社から送付された原子力災害対策特別措置法第10条に基づく通報資料等の公表について 122

〔付表・2〕 原子炉の水位、圧力容器(RPV)内の圧力、およびドライウエル(DW)内の圧力の経時変化 164

第2章 3・11に至るまでの日本の原子力安全規制 177

——国はなぜ「全交流電源喪失を考慮する必要はない」としたのか 177

- 2.1 事故を防げなかった国の安全規制 178
 - 2.2 すべて想定されていた 188
 - 2.3 国策民営体制——責任の所在が不明確 198
- 〔付論〕 原発事故の原因は「原子力」そのもの 217

第3章 日本の原子力政策——核兵器製造力とエネルギー自給を高速増殖炉に託す 225

- 3.1 核兵器製造のポテンシャルを保持する 228
- 3.2 高速増殖炉によるエネルギー自給に固執 238
- 3.3 核燃料サイクルと再処理 248
- 3.4 放射性廃棄物の処分 262
- 3.5 日本の原子力政策への提案 269

〔付論・1〕 「自給」という強迫概念 272

〔付論・2〕 濃縮、再処理、増殖 277

〔付論・3〕 再処理をめぐる日米攻防 281

〔付論・4〕 韓国と台湾の再処理への関心 284

第4章 原発が地域にもたらしたもの

- 4・1 米国―中央―地方―ムラ 289
- 4・2 原子力は雇用増と所得増をもたらす 294
- 4・3 原発依存症―原発なしには、たち行かない経済 303
- 4・4 原発立地―近年は既設発電所敷地内の増設が主流 305
- 4・5 放射能被害 309
- 4・6 これからの原子力政策と原発立地地域の今後 321

第5章 風評被害を考える

327

- 5・1 風評の恐ろしさ 328
- 5・2 各種メディアの取り上げ方 336
- 5・3 打ち手としてSWall of Shame(恥辱の壁) 343
- 5・4 「検証屋」機能のトライアル 350
- 5・5 別の可視化装置 357
- 5・6 総論としての日本論 363
- 「付論1」言語の壁 370
- 「付論2」「恥辱の壁」に寄せられた「怪しい報道」の事例 372
- 「付論3」ソーシャルメディアの威力―外国人ジャーナリスト川口ユディが経験したこと 375

第6章 電力事業における原子力発電の位置

379

- 6・1 そもそも発電コストパフォーマンス論 380
- 6・2 原子力発電のコスト 395
- 6・3 電気料金の決め方―総括原価方式 404
- 6・4 原子力損害賠償スキーム 407
- 6・5 発送配電分離 418
- 6・6 人口の減少とエネルギー需給 428
- 「付論」 民営だったはずが原発のせいで事実上の国営に 442

第7章 原発普及の今後

445

- 7・1 原発普及は先進国から新興国へ 447
- 7・2 原発の安全保障上の役割 461
- 7・3 新興国が電力の未来を決める 471

あとがき 480

文献一覧 489

寄付者一覧 502